

沖縄タイムス 2015年11月27日

瀬底さんの作品【要約】

県民の平和な暮らしや安全を守りたいという思いで警察官になった人がどんな気持ちで、県民と向かい合わなければならなかったのか、どうして、ただ平和を願うだけののはずの沖縄県民同士が敵味方のように向かい合わなければならないのかと考えたくて、この記事を選びました。

母はこの記事を何度も読み返しました。それは、警察官や新基地建設に反対する市民の複雑な気持ちを思ってや、この沖縄の現状への悔しい気持ちと思ったら、違いました。この記事は、特別なんだということ。現場で激しく対立する人たちの悔しさや苦しい気持ちを、記事の最後の締めくくりの17文字が救ってくれた感謝の気持ちなんだと答えてくれました。

私はこれまで、新聞は記者が現場に行っ て実際に目の前で起こったことをただ伝えることが、新聞の役割だと思ってきました。だからこの記事も、制服を脱げばずっと基地に苦しんできた同じ県民には変わらない警察官でも辺野古での様子からすると、「県民と対立する相手」のように書かれても仕方がないと思いました。でも「警察官は目頭をこすって空を見上げた」、この一文を加えてくれたということは、その記者は、警察官たちがいろいろな迷いや葛藤があつてそこに立っていることを分かってくれたかもしれない。たくさんの県民のなかには基地反対でも声に出して反対と言えない人たちがいる沖縄の複雑な現状を伝えたいと思って書いてくれたかもしれないと思うと、新聞は伝えるだけじゃなく、母のように人の気持ちを救う力もあるのだと気づき、私も感謝でいっぱいになりました。一日も早く県民同士が向かい合わなくてすむような、本当の終戦が沖縄に訪れるよう心から願い、考えていかなければと思えたありがたい大切な記事でした。



重点目標:『きき合い 支え合う 最高に輝く学校』

不退転

第 37 号
東江中学校
校長 神元 勉

もっと新聞を読もう!

第6回「いっしょに読もう! 新聞コンクール」で北中城小6年の瀬底蘭さん(12歳)が、全国1位となる最優秀賞を受賞しました。県民が立場の違いにより、まるで敵味方のように向かい合わなければならぬ沖縄の現状を考えたいと「国策 民意を侵害」(沖縄タイムス1月16日付社会面)の記事について母親と意見を交わしました。その様子を書いた作品の要約を読んでもビックリしました。

小学校2年の頃から、新聞に興味を持ち始め、「好きな記事や興味のある記事に偏らず、いろいろな人の考えを知ることができる」と新聞の良さを語っています。(沖縄タイムス1月27日付社会面から引用)とても小学校6年生が書いたたり、述べたりする内容とは思えず、ただただ、感心しきりです。新聞を読む習慣の大切さを教えてください。みなさんも、知識や考えを深めるために、もっともっと新聞を読みましょう!!

十二月の生活目標

環境美化委員会からお知らせします。12月の生活目標は、「教室に感謝の心を持つ」とです。「私たちが環境を創り、環境が私たちを育てる」という言葉があります。睡眠を除く1日の大半を私たちは、学校で過ごします。いつも使っている教室



に感謝の気持ちを込めて、整理・整頓・清掃に努めましょう。22日には、クリーン大会を行います。一学期に台風接近のためにできなかった分も含め、みんなで教室や廊下をきれいに磨き上げましょう。活動時間は、1時間です。また、エコを意識し極力、水を使わないようお願いいたします。クリーン大会までに机の落書きを消し、ロッカーを整理整頓し、窓ガラスもきれいに拭いておいてください。環境美化委員会が、12月1日から点検活動を行います。二学期も残り1カ月となりました。身の回りの環境をきれいにして、冬休みを迎えましょう。

※「不退転」: 信念を持ち、何事にも屈しないこと